

読書のすすめ

土岐市図書館 ☎1253

暑い夏に本でヒンヤリ



暑い時期に怖い本はいかがですか。私は幽霊が苦手という方もおみえだと思いますが、怖いもの見たさもあり、怖がりでも楽しめる本を紹介します。もしもしたら背中から涼しくなるかも…?

佐々木喜善『ザシキワラシと婆さま夜語り』。「遠野物語」として広く知られる伝説は、著者が柳田国男に語ったもの。この本も、座敷童子など遠野の地で起こったとされる出来事が書かれ、読んでいくにつれ不思議な世界に入り込んでいくようです。現代仮名遣いに改められ読みやすい一冊です。

ロバート・グレンビル『絶対に出る世界の幽霊屋敷』。表紙を見ただけで心がザワザワしてしまいました。ページをめくると、お城や景色などとても美しいのですが、なぜか落ち着いて見ることができません。実際に幽霊は写っています。が、何かが起こりそうな気持ちにさせる写真集です。

加須屋誠『地獄絵』。そもそも地獄とは何か？という疑問からはじまり、何をしたら地獄に落ちてしまうのか、どんな地獄があるのかなど、地獄の豆知識が載っています。「六道絵」などの地獄絵も解説付きで分かりやすく怖いのですが、絵の迫力に見入ってしまいます。

私の一冊

エリック・ホッファー／著
エリック・ホッファー自伝



土岐市読書推進計画
策定委員
豊田高広さん

私が紹介したい一冊は、『エリック・ホッファー自伝（作品社）』です。

ホッファーは、季節労働者として第二次大戦開始直前の約10年、米国各地を転々とし、晩年は「※沖仲仕の哲学者」と呼ばれました。読書家だけ蔵書家ではない彼の、本との一期一会の付き合い方に惚れます。しかし、米国中に公共図書館が整備されていなければ、彼の独学は難しかったでしょうね。

事実を描いて小説より面白い本書は、市の図書館にもありますよ！

※沖仲仕 船からの荷揚げ荷下ろしを行う労働者



豊田高広さんの略歴

昭和33年静岡市生まれ。静岡市に入庁し、平成6年より図書館の運営、各種計画を担当。平成18年から同市御幸町図書館長。平成22年より愛知県田原市中央図書館長。現在は、民間の研究員として各地の公共施設の計画づくりなどを支援し、大学では社会教育の専門家を育成。著書（共著）に『図書館はまちの真ん中』勁草書房など。

8月の休館日

■休館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

開館時間
火～金曜日
午前10時～午後7時
土・日曜日、祝日
午前10時～午後5時

お知らせ

今年度の課題図書の貸出は例年通り7月1日から8月31日までとなっており利用冊数は1人1冊、期限は1週間です。予約をすることはできません。

たくさんの方に利用いただくため、ご了承ください。